

SHEP（市場志向型農業振興）研究チームとの意見交換 （令和 6 年 4 月 19 日）

2024/4/16

令和 6 年 4 月 19 日、西牧大使は「北部ナミビアの畜産農家に対する SHEP アプローチの効果」の研究を開始するために当地出張中の邦人研究者 4 名を大使公邸に招いて、意見交換を実施しました。SHEP アプローチとは、JICA の技術協力プロジェクトにおいて開発された小規模園芸農家支援のアプローチで、野菜や果物を生産する農家に対し、「作って売る」から「売るために作る」への意識変革を起こし、営農スキルや栽培スキル向上によって農家の園芸所得向上を目指すもので、ナミビアでは家畜に応用されています。本研究では、日・ナミビア両国の研究者が 2 年間に渡って共同研究を行う予定で、ナミビア以外の国でも活用できる畜産における SHEP のインパクト評価や方法論を確立することを目指しているそうです。



（最前列左から）桐野 JICA 国際協力専門員、西牧大使、蒔田酪農学園大学教授

（2 列目左から）鬼木国際農林水産業研究センター研究員、洲崎 JICA ナミビア支所長、池上法政大学教授

（3 列目以降左から）星野 JICA ナミビア支所長、矢野書記官、定本参事官、山田書記官